

ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会における意見交換テーマ

1 各委員の専門分野や職場等におけるUDについて

- 現在の日本の社会では、少子高齢化や障害のある人の増加、外国人の増加など、社会情勢に影響を及ぼす変化が進んでいる。
- そのほか、デジタル化が急速に進展し、利用者の利便性が向上した一方、デジタルデバイドの問題も生じている。また、性の多様性に対する社会的な認知度の向上のように、人の価値観や行動に影響を与える変化も起きている。
- UDに関連する法制度に目を向けると、ハード整備・ソフト対策の一体的な取組強化及び「心のバリアフリー」の推進を目的としたバリアフリー法の改正や、事業者による「合理的配慮」の努力義務から義務化する障害者差別解消法の改正がなされている。
- ◎ このような様々な社会の変化を踏まえ、UDについて、各委員の専門分野においてどのような動きがあるか、職場や地域社会の中でどのような取組が行われているか、また、それらに関する委員の所感について、お話を伺いたい。

2 心のUD実践者を拡大するための取組について

- 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に34.2%まで増加したが、それ以降は減少傾向にあり、実践する人を増やすための新たな対策が求められている。
- 心のUDを促進する取組の中でも、「心のUDプラス実践講座」については、企業・団体向けにオーダーに応じて様々な人への配慮や対応方法を想定した実技講座として実施しているもので、受講者から大変好評を得ている。しかしながら、従来の対面・集合形式では、コロナの感染状況によっては実施が不確実で企業・団体が申込みを躊躇する場合があります。また、実技中心の講座内容で少人数制となることから、受講者数の大幅な増加が見込めない。
- そのため、オンライン開催を可能とし、複数箇所、同時に講座に参加できるように、講座内容のうち実技部分を動画にした教材を作成し、講座において使用するほか、フォローアップ用に企業・団体に提供することを検討している。
- ◎ この案に対する御意見やその他効果的な方法に関する御意見、好事例の御紹介など、委員の御視点から具体的な方法についてお話を伺いたい。

<参考：困っている人を見かけた際に声を掛けたことがある県民の割合>

| 年度 | 基準値 (平成29年度) | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 目標値 (令和8年度) |
|----|-----------------|--------|-------|-------|-------|----------------|
| 割合 | 25.3% | 33.0% | 34.2% | 33.0% | 31.3% | 40% |